
はちゃめちゃ忍者日記 忍たま乱太郎

ダークカブト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はちやめちや忍者日記 忍たま乱太郎

【Nコード】

N3120BA

【作者名】

ダークカブト

【あらすじ】

この小説は忍たま三人組とオリキャラの主人公先生とその他のアニメキャラが引き起こす、どたばたコメディ小説です。よかったらぜひ見て下さい。

始まり、始まりの段（前書き）

これは最近、作者が忍たま乱太郎にはまって勢いで書いた物ですが、それでもちよくちよくがんばろうと思います。

始まり、始まりの段

「ここは、神奈川県、川崎市。南西を海に、北東を海に囲まれ、東西南北それぞれに一つずつ学び舎があり、北に私立桜が丘高等学校、東に川神学園、西に聖クロニカ学園、南にホームズ探偵学院が在り、さらに」

「先生」

「……さらに、街の中央には日本国内の超能力者、つまりエスパーを育て、さらに超能力対策を担当する政府機関、正式名称、務省特務機関超能力支援研究局、英称、Base of Backing Esp. Laboratory通称B.A.B.E.L.本部がたたずんでいる」

「さらに、さらに」

「昆虫門先生」

「……さらに、さらに、東には川神院とゆう名高い寺院がある」

「先生、誰に話してるの？」

「……さらにこの川上院は武術の鍛錬場所としても有名な
ある」

「あつ、無視した」

「では次にこの世界の事に関して説明しよう、さつきも言っ
たとおり、この国にはエスパー、つまり超能力者がいるエスパーの
強さは全部で7段階、超度1は静止している人や、特に超能力に敏
感な人が感じる程度。超度2は大勢の人が感じる。戸や障子が揺れ
る程度。超度3は家屋が揺れ、電灯などのつり下げ物が大きく揺れ
る。超度4は花びん等が倒れ、歩いている人にも感じられる。多く
の人が驚いて外に飛び出す。」

「先生、読者の皆さんに字数稼ぎって思われちゃいますよ」

「……まあ、超度5と超度6は置いといて、最後の超度7、
つまり最高ランクのレベル7はあらゆる物が破壊され、物が飛ぶ。
……とつ、こういった具合で超能力に關しての話はこれまでだ……次
に」

「……まだやるのかよ？」

「???」もう良いや、説明が終わるまでまってよう」

「???」そうだな」

そう言うところの子供はいつ用意したのかコタツの中に入りみかんを食べたりマンガを読んだりなどしている

「???」……………さっさと終わらせよう、次にこの世界にはトイズと呼ばれる超能力に似た能力を使う者たちがいる、そしてトイズを悪事のために利用する怪盗と正義のためにトイズを用いる探偵とが激しく対立している……………」

包帯の男は話を止めると持っている太いストローの付いた竹の水筒で水分補給をすると又、喋り始めた

「???」最後に、この世界にはごく稀にだが忍者と呼ばれる集団がいる忍者とは影に生き、影で死ぬ、まるで幻の様な存在なのだ」

「???」忍者は日本各地にそれぞれ少なからずいる……………何故、私がそんなに忍者に詳しいかって?……………それは」

「???」私が……………」

ばっ！

??? × 3 「「私「俺」「僕」達が忍者だからでえええす！」」

??? 「のわっ！」

包帯の男が言いかけた瞬間、コタツに入っていた3人が急に飛び出し男を突き飛ばし自分達がいいところを持っていった

??? 「いやああ、決まったな」

??? 「うん！」

??? 「やっぱりここは私達が占めないかね」

3人がそんな会話をしていると

??? 「おい」

??? × 3 「「ひいつ!?!?!」」

騒いでいた3人はその声に反応するとそつと後ろを振り向く、そこには

???「お前達」

???×3「「「あわわわわわ」「」

3人に突き飛ばされた包帯の男が3人を睨んでいた

???「乱太郎」

乱太郎「はい…」

???「きり丸」

きり丸「はい…」

???「しんべえ」

しんべえ「はい…」

???「お前達……」

乱太郎「ひiiiiiii」

???「お前達は……」

きり丸、しんべえ「「わわわわわわ」」

???「お前達は忍者じゃなくて忍たまだろっ」

乱太郎、きり丸、しんべえ「わあああああ!」

ずこおおお!

乱太郎たちはそのままずっこけてしまった

乱太郎「てっ、そこは怒らないんですか?」

???「ああ、そうだ」

きり丸「だったら、あんな顔で睨まないでくださいよ!」

???「失礼だな……あつ!」

乱太郎「どうしたんですか?」

???「大事な事を言い忘れていた」

乱太郎「大事な事?」

???「皆さん、私はこの3人の師匠をしているフリーの忍者、雑渡つと昆こなもん奈門です」

乱太郎、きり丸、しんべえ「「「あああああ!」」」

ずこおおお!

雑渡昆奈門が突然、自己紹介をしたので乱太郎たちはまたずっこけた

昆奈門「それじゃあ、乱太郎、きり丸、しんべえ」

乱太郎、きり丸、しんべえ「「はいつ！」「」」

昆奈門「次回から本格的に小説が始まる、準備は良いな？」

乱太郎、きり丸、しんべえ「「はいつ！」「」」

昆奈門「それじゃあ、読者の皆さんに小説の宣伝を頼む」

乱太郎、きり丸、しんべえ「「はいつ！」「」」

乱太郎「はちやめちゃ」

きり丸、しんべえ「「忍者日記」「」」

乱太郎、きり丸、しんべえ「忍たま乱太郎！」

昆奈門「どうぞよろしく」

始まり、始まりの段（後書き）

雑渡 昆奈門 C V 森久保祥太郎

人相は忍たまの昆奈門に似ているが髪は茶髪で忍装束を着ていないため右目と髪を残して顔全体を包帯で覆っている服装はFate/Zeroの衛宮 切嗣と同じ黒いコートを羽織っている懐には常にクナイなどを隠し持っている

実力は様々な忍具を使いこなすため、条件がそろえば川神 百代を倒せるレベル

不幸の依頼の段（前書き）

今回はオリキャラの依頼主が出ます。

不幸の依頼の段

川神市　とあるビル

ビルのとある部屋に昆奈門と乱太郎達とスーツを着た40代前半の頭が薄い男性がソファに座っていた

不孝「どうも、私はこのビルのオーナーの不孝鈍底ふこうどんぞこと申します」

乱太郎「不幸のどん底？」

不孝「いえ、不孝鈍底です」

昆奈門「それで不孝さん、依頼の内容は」

不孝「ええ、私は自分で言うのも何なんです、名前の通り昔から不孝続きで高校受験は2浪して高校に合格、合格したは良いんですが、その高校が不良だらけの高校で私は3年間ずっとぱしりをさせられてしまい高校を卒業して大学受験を受けたのですが、大学受験は4浪までしてしまい、大学に合格したらその大学も不良の巣窟みたいな大学で私はそこでも4年間ずっとパシりをさせられ、大学を卒業した後、親の後を継いで美術館のオーナーになっただけですが昨年、ある人物に騙されて美術館の不動産登記を奪われてしまいこの

古びたビルで運送業をやっています……はああ」

不孝さんは話終わると深いため息をつく

昆奈門「それは…何というか」

乱太郎「とんでもないほどの不孝ですね」

きり丸「乱太郎以上の不幸の持ち主がいたなんて」

しんべえ「おどろき」

昆奈門「それより依頼の内容は？」

不孝「ああ、そうでしたね、実は……」

4人「」「実は？」「」「」

不孝「その美術館からある品物を奪い返して来て欲しいのです」

乱太郎、きり丸、しんべえ「ええええええ！？」

不孝の依頼内容に乱太郎達は驚いたが、昆奈門は平然と話しを聞く。

昆奈門「何故、そんな事を今更」

不孝「はい……実は先月の事なのですが家にある私の父の書斎を掃除している時に」

不孝はポケットから一枚の手紙を取り出した

不孝「この様な物が出てきたんです」

昆奈門「これは」

昆奈門がその手紙を読むとその手紙にはこう書かれていた

「我が息子、鈍底へこの手紙をお前が読んでいるとゆう事は私はもうこの世にはいないとゆう事だろう、そこでこの手紙をお前に授ける、実は我が不孝家には代々伝わる家宝がある、我が不孝家が窮地に陥った時、その家宝を使え 父より」

昆奈門「……………おもしろい手紙を書くお父様ですね」

不孝「よく言われました」

しんべえ「でっ、結局どうゆう事？」

しんべえは頭から？マークを出しながら頭を捻る

きり丸「そうか！」

すると何かに気づいた様にきり丸が立ち上がる

乱太郎「どうしたの、きり丸？」

きり丸「つまり、その不孝家に伝わる家宝は不孝さんが騙し取られた美術館の地下にかくされていて、その家宝を取ろうにも美術館はもうだました奴の物だから、もしその事をそいつに話して家宝を取らせてくれと言ってもそいつは家宝を奪おうとするだろうし、だからと言って自分で取りに言ってしまうば泥棒としてつかまってしまっ、だからプロの忍者である先生に家宝を奪い返してくれと頼んだんだ！」

きり丸は目を銭にしながら熱く状況を説明した

不孝「その通り！」

昆奈門「さすがだ、きり丸」

乱太郎「さすがきりちゃん！お金の事になると頭の回転が速い！」

昆奈門「分かりました、不孝さん」

不孝「はい！」

昆奈門「その依頼、受けましょう」

不孝「ええ！本当ですか！？」

昆奈門「ええ、但し報酬はその家宝の」

不孝「えっ！？まさか、家宝の5割？それとも6割？まさか、7割！？」

昆奈門「いええ、1割で結構です」

不孝「たつ、たった1割でよろしいんですか!？」

昆奈門「ええ、それでは決行は3日後の昼2時に」

乱太郎「えっ?先生、普通そうゆうのって夜にやるんじゃない?」

昆奈門「いや、3日後は川神美術館でジュエリーオークションが開かれる、警備はほとんど会場に着くから、その時に行った方が楽なんだ」

乱太郎「へええええ」

不孝「あのー…それはそうと」

昆奈門「どうしましたか?不孝さん」

不孝「あなた、なんで足を揃えて座ってるんですか?」

そう言われた通り、昆奈門はなぜか足を揃えて横座りしており何か女性っぽい座り方で合った

昆奈門「この座り方が落ち着くんです」

不孝「そつ、そつですか」

昆奈門「それでは、乱太郎、きり丸、しんべえ、行くぞ」

乱太郎、きり丸、しんべえ「「「はああい!」「」」

そのまま昆奈門と乱太郎達は部屋から出て行った

不孝「……………あの人達で本当に大丈夫かな」

鈍底はとても不安な顔をしていた

不幸の依頼の段（後書き）

次回は原作の内、いくつかのキャラが出ます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3120ba/>

はちゃめちゃ忍者日記 忍たま乱太郎

2012年1月8日18時49分発行